

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	873500086		
法人名	社会福祉法人 愛孝会		
事業所名	グループホーム 福祉の森 聖孝園		
所在地	日立市十王町高原333-6 (電話)		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】(平成20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	(本館)平成14年2月1日 (新館)平成18年5月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算10.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り (本館)1階建ての1階部分 (新館)2階建ての1、2階部分
------	----------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(本館)30,000円(新館)40,000円	その他の経費(月額)20,000円
敷金	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	償却の有無 無
食材料費	朝食 360 円	昼食 460 円
	夕食 460 円	おやつ 120 円
または1日当たり 1,400円 その他行事食等月 1,000円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	9名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県北医療センター高萩協同病院、若松歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は、自然豊かな環境のなかで山菜採りや栗拾いなど、四季を楽しみながら生活している。
また、花壇や菜園づくりでは、利用者の経験や知恵を発揮できる場面となっている。
ホームでは外出や行事も多く、大型スーパーの出張販売や居酒屋の開店などユニークな取り組みも多いが、利用者の落ち着いた穏やかな生活への配慮もされている。
災害対策も万全で、利用者は日々安全な生活を確保されている。
職員は、ローテーションを工夫しながらホーム内外の研修に意欲的に参加している。
また、職員の宿泊旅行も行われストレス解消が図られるとともに、職員同士が仲が良いことが反映され、利用者もゆったりと和やかな雰囲気の中で過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題はなかったが、慢心することなく、理念である「馴染みの暮らしの継続、地域の一員としての生活」を念頭に、スキルアップを図りながら支援してゆくことを全職員で話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は、全員で自己評価を行うことにより、気づきや日々の支援を振り返る機会としている。 また、自己評価の意義を十分理解し、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、サービスの実態や取り組みなどについて報告し、委員から意見や要望を受けるなど、相互の話し合いを行うことによりサービスの質の向上に努めている。 また、会議内容について細部にわたり記録し、議事録はホームの入口カウンターに置いて公開するとともに、家族に報告している。 事業運営で生じる課題などは、市の担当者に相談し解決を図っている。 管理者は十王地区社協役員や介護認定審査会委員として尽力するとともに、施設内に地域包括支援センターを設置するなど、市との関わりを密にしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月発行する「ホーム便り」を職員の異動や行事予定などとともに、利用者一人ひとりの健康状態や日々の様子などを報告している。 また、面会時に利用者の様子や預かっている小口現金の出納帳の報告、さらには行事のスナップ写真などを見せている。 重要事項説明書に苦情の窓口を明示するとともに、ホーム内に意見箱を設置している。 また、毎月送付する「お便り」に意見・要望欄を設けたり、家族懇談会や運営推進会議などで意見や苦情について発言できる機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小学校の運動会や盆踊り大会、蛍見学などに利用者とともに参加している。 近くの「妙見様」の祭りは、ホームができたことがきっかけで復活し、地域の方々がホームにおいて催している。 保育園児との交流会、老人会や地域の方々によるボランティアの訪問も毎月行われている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に「馴染みの暮らしの継続、地域の一員としての生活」を念頭にホーム独自の理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に必ず理念を伝えるとともに、理念を印刷した名札を携帯するなどして、常に理念を念頭においたケアの実践に努めている。 また、ミーティングや申し送り時でも話し合い確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会や盆踊り大会、虫見学などに利用者とともに参加している。 近くの「妙見様」の祭りは、ホームができたことがきっかけで復活し、地域の方々がホームに集まり催している。 保育園児との交流会、老人会や地域の方々によるボランティアの訪問も毎月行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、全員で自己評価を行うことにより、気づきや日々の支援を振り返る機会としている。 また、自己評価の意義を十分理解し、具体的な改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実態や取り組みなどについて報告し、委員から意見や要望を受けるなど、相互の話し合いを行うことによりサービスの質の向上に努めている。 また、会議内容について細部にわたり記録し、議事録はホームの入口カウンターに置いて公開するとともに、家族に報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営で生じる課題などは、市の担当者に相談し解決を図っている。 管理者は十王地区社協役員や介護認定審査会委員として尽力するとともに、施設内に地域包括支援センターを設置するなど、市との関わりを密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「ホーム便り」を職員の異動や行事予定などとともに、利用者一人ひとりの健康状態や日々の様子などを報告している。 また、面会時に利用者の様子や預かっている小口現金の出納帳の報告、さらには行事のスナップ写真などを見せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情の窓口を明示するとともに、ホーム内に意見箱を設置している。 また、毎月送付する「お便り」に意見・要望欄を設けたり、家族懇談会や運営推進会議などで意見・苦情について発言できる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員によるケアを心がけている。 やむを得ず新しい職員を配置する場合は、早く馴染みの関係を築けるよう他の職員がフォローしながら異動によるダメージを最小限になるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立て、職員のローテーションを考えながらパート職員も含めて積極的に受講するとともに、研修内容は職員会議の時に報告をして共有している。 施設内での研修は、毎月の職員会議後に時間を設けて実施している。 また、管理者がグループ会議に参加し、助言、指導、最新情報を提供することにより職員のスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市の事業者懇談会や運営推進会議などで、グループホーム間で情報を共有したり、職員が抱える悩みなどの意見交換や交流する機会の必要性を提言している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職店が自宅に出向いたり、ホームへ見学に来てもらい、職員やホームの雰囲気などに馴染んで、安心・納得したうえで利用を始められるよう工夫している。 また、法人施設のデイサービス、ショートステイ、生活支援ハウス利用者からの利用の場合も、各部署と協力しながら気軽に見学や交流の機会をもち、ホーム内の雰囲気に徐々に馴染みながら利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側される側という意識をもたず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや声かけをしている。 人生の先輩として利用者に教えてもらう場面も多く、得意分野で力を発揮してもらいながら喜怒哀楽をともにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時に、利用者や家族に意向・要望などを聞いて把握に努めている。 また、日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向を言葉や様子などから汲み取り、介護記録に残しケアの反映に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族に意見・要望、生活に対する意向を聞き、介護記録なども参考に全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。 また、必要に応じて医師や事業所の相談員の助言を得、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに見直しをしているが、状態が変化した場合は利用者や家族の要望を取り入れ、必要な関係者と話し合い介護計画の検討・見直しをしている。 また、実施評価表を作成し、目標達成度を見ながらより現状に即したケアを行えるよう努めている。 評価表は記号化し、誰にでも一目で状態が分かるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、病院受診の支援や特別な外出及び付き添いの支援を柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医のほか、利用前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう配慮している。 訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と連携している。 受診には職員が付き添うことにより情報提供を行い、受診結果を職員間で共有してケアに反映させている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの研修を受け、受講内容を職員間で共有することにより理解を深めている。 重度化した場合は、家族や医療機関と連携を図りながらケアにあたる方針である。 また、利用時には、利用者や家族の希望を受け入れ可能な限り対応することを家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護に関する勉強会を全職員が職員会議などで定期的を受け、意識の向上を図っている。 運営理念である「人格の尊厳を守り」を念頭に言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間など、本人のペースで行えるよう一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。 申し送り時に利用者のその日の体調・様子などを確認するとともに、記録し職員で情報を共有し支援できるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり調理や盛り付けなどをともに 行い、楽しく食事ができるよう支援している。 配膳・後片付けなどは曜日ごとに担当を決め、一人 ひとりの力を活かしながら職員と一緒にやっている。 また、食堂のテーブルの形も様々にし、楽しい雰囲気 で食事ができるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は日曜日・火曜日・木曜日・土曜日、足浴日 は月曜日・水曜日・金曜日としているが、希望に合わ せて入浴できるよう柔軟に対応している。 入る時間や順番は話し合いながら決めており、浴室 は広くゆったりとして、仲の良い利用者同士が一緒 に入れるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から生活歴など情報を収集しながら、 草取りや畑仕事、家事、裁縫、おやつ作りなどで経験 や知恵を発揮できる場面づくりをしている。 俳句や書道などの趣味をもつ利用者も日々の暮らし のなかでその力を活かせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や昼食ツアー、バスハイクなど外に出る機会 を多くしている。 散歩は毎日の楽しみでもあり、系列施設全体の行事 や地域のイベントなどにも積極的に参加している。 日帰り温泉ツアー、一泊旅行なども利用者で行き先 などを相談しながら実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は利用者の行動を制限することのないよう、玄 関や居室の窓は鍵をかけない配慮をしている。 一人で散歩に出る利用者もいるが、敷地内の系列施 設の職員の協力のほか地域の人々の協力も得、見守り や声かけのほか連絡をしてもらえる関係を築いてい る。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、月1回避難訓練を行っている。 同時に年2回の消防署立会い訓練、年1回の夜間を想定した訓練も行っている。 また、警官の立ち寄りや地元消防団の夜警の協力も得ている。 非常用食料は施設全体で備蓄するとともに、職員は、万一の時のために地域の人々と良好な関係を築けるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーについては、管理栄養士に指示を受け、一人ひとりの嗜好や身体状況に合わせた料理を提供している。 また、食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サッシや天窓から自然の光が入るよう工夫をしており、部屋全体がとても明るい。 BGMやテレビなどの音は、職員が状況に合わせて調整しており落ち着いた雰囲気である。 家具や小物は家庭的で温かみのあるものに揃えとともに、炬燵のある量の部屋には、理念を書いた手書きの額が掲げられ居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、使い慣れた馴染みの物の利用をお願いしている。 居室は一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせ籐椅子や小物、仏壇などを置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。